

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学習活動や特別活動に積極的に取り組むことにより、

1. 総ての生徒の進路希望の実現を図る。特に保護者・生徒の希望する中堅大学への進学をめざす。
2. 部活動や多彩な学校行事を通じて、充実した高校生活を保障し、逞しい人間性の育成を図る。
3. 国際教養科を設置する高等学校として、英語教育・国際理解教育の充実を図る。

2 中期的目標

1 英語教育、国際理解教育の一層の充実

(1) 「使える英語プロジェクト」事業の成果を継承し、英語教育の充実を図る

- ア. 英語指導法のさらなる改善と研究成果の発信に努め、英語検定の準2級以上の合格をめざす学校全体での取組を進める
- イ. 各種の行事を英語学習の動機付けに活用すると共に、資格取得のキャリアアップを支援する

(2) さまざまな国際理解教育の機会づくり

- ア. 小中・他校との連携を視野に入れた英語・国際理解関連行事の推進
- イ. 海外姉妹校との交流機会を深めると共に、グローバル社会を意識した生徒を育てる
- ウ. 国際教養科の取組を学校の特色とし、新たなチャレンジをする機運の醸成を図る

※「学校教育自己診断」の「②英語教育・国際理解教育」(H24:79%、H25:80%)で、H28年度に満足度80%台維持を目標とする

2 魅力ある授業による、生徒の学力向上

(1) 学習の動機付けとなるキャリア教育を充実する

- ア. 総合的な学習の時間を活用したキャリア教育をとおして、中堅大学への進学を含めたすべての生徒の進路希望実現をめざす
- イ. 「花園キャリアプラン」に基づき「総学」の充実を図ると共に、「経営推進事業」の着実な成果による進路希望実現を図る
- ウ. 高大連携等による学習活動への明確な目標意識を育成すると共に自学自習の習慣を定着させる

(2) 魅力ある授業づくりと生徒満足度の向上

- ア. 授業アンケートの結果を踏まえた魅力ある授業づくりに向け、改善点の検討や研究授業等を実施する
- イ. 学校教育自己診断の実施・分析を通して、学校としての魅力づくりと環境改善に取り組む

(3) 学習環境の改善

- ア. 挨拶の励行と遅刻防止を推進し、1日の学習を気持ちよく始める
- イ. 清潔、快適な学習環境を実現するため、クリーンアップ作戦等の校内美化を推進する

※「学校教育自己診断」の「⑧家庭での学習習慣」(H24:29%、H25:32%)で、H28年度に確立度35%。「⑥授業の工夫」(H24:56%、H25:66%)で、H28年度に満足度65%以上の維持を目標とする。また、学校教育自己診断の「⑩進路意識の確立」(H24:61%、H25:66%)、「①総合満足度」(H24:82%、H25:85%)で、対前年比3%向上を目標とすると共に、「学校経営推進事業」アンケートによりH27年度に第一希望進路実現率を80%とする。

3 行事・部活動や広報活動等の充実

(1) 部活動への参加率の向上

- ア. 学校生活に軸足を置いた生活をめざし、体験入部期間の延長などによる入部率の向上をめざす
- イ. ブログの活用や部活動体験会等による、中学生への情報発信を行う

(2) 生徒活動の活性化と広報活動の強化

- ア. 生徒会等による学校行事の活性化を通じて生徒の自尊感情を高める
- イ. 学校の魅力を発信するHPの充実と、「花園 PRESS」の活動など、自由な発想で特色ある広報企画を実施する

※「学校教育自己診断」の「⑨生徒会活動」(H24:58%、H25:68%)で、H28年度に積極的参加度70%。また、「⑩人間関係」(H24:80%、H25:82%)で、H28年度に肯定感80%台持続を目標とする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見																																				
<p>◎指標変化：数値は各設問分野への肯定的回答率、()内はH25年度比増減%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【H26年度】</th> <th>【生徒】</th> <th>【保護者】</th> <th>【教員】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 家庭学習習慣＝</td> <td>35% (+3)</td> <td>35% (+4)</td> <td>5% (+3)</td> </tr> <tr> <td>② 学力の付く授業＝</td> <td>70% (+3)</td> <td>71% (+8)</td> <td>68% (-14)</td> </tr> <tr> <td>③ 校則遵守＝</td> <td>83% (+2)</td> <td>84% (+3)</td> <td>35% (-3)</td> </tr> <tr> <td>④ 行事参加＝</td> <td>63% (-5)</td> <td>87% (-2)</td> <td>94% (+2)</td> </tr> <tr> <td>⑤ 国際交流＝</td> <td>78% (-1)</td> <td>81% (±0)</td> <td>92% (+5)</td> </tr> <tr> <td>⑥ 進路指導＝</td> <td>62% (+6)</td> <td>63% (+4)</td> <td>57% (-8)</td> </tr> <tr> <td>⑦ 部活動＝</td> <td>79% (±0)</td> <td>78% (+1)</td> <td>82% (-1)</td> </tr> <tr> <td>⑧ 学校満足度＝</td> <td>82% (-2)</td> <td>86% (±0)</td> <td>94% (+6)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※【生徒】HRが快適＝67%(-3)、良好な人間関係＝80%(-2)</p> <p>・生徒と保護者の回答数値及び増減傾向が非常に近いものとなっている。このことは、学校生活を話題としたコミュニケーションの良さを示すものともとれる。</p> <p>・教員の回答数値及び増減についてみると、前年比での変動が大きいことが顕著。生徒の学習成果を見て更なる授業の工夫が必要という意識が高まるなどしているように見える。</p> <p>・行事の参加に関する生徒と保護者・教職員の意識差は昨年同様である。行事の位置づけ、意義についての共有を図る工夫も必要。</p> <p>・引き続き、HRの快適性や良好な人間関係の構築を大切に、安心できる学校づくりを持続したい。</p>	【H26年度】	【生徒】	【保護者】	【教員】	① 家庭学習習慣＝	35% (+3)	35% (+4)	5% (+3)	② 学力の付く授業＝	70% (+3)	71% (+8)	68% (-14)	③ 校則遵守＝	83% (+2)	84% (+3)	35% (-3)	④ 行事参加＝	63% (-5)	87% (-2)	94% (+2)	⑤ 国際交流＝	78% (-1)	81% (±0)	92% (+5)	⑥ 進路指導＝	62% (+6)	63% (+4)	57% (-8)	⑦ 部活動＝	79% (±0)	78% (+1)	82% (-1)	⑧ 学校満足度＝	82% (-2)	86% (±0)	94% (+6)	<p>◎第1回 平成 26 年 5 月 19 日(月) H26年度計画の概要説明と協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器の導入なども含めて新しいチャレンジを行ってほしい。 ・ 学年をあげての朝の小テストの取組は、遅刻の大幅な減少という副次的な良い成果も上げており、足並みをそろえて取組み続けることが大切である。 ・ 今年度の学校経営計画に従って、学校経営を推進して行ってほしい。 ・ 生徒が自ら学び、自信を持って行動できるような方向で伸ばしてやってほしい。 <p>◎第2回 平成 26 年 10 月 2 日(木) 経営推進事業の進捗確認、授業アンケートの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業成果の指標が「中堅大学への進学」となっているが、自己実現の方法はさまざまなものである。地元の貢献できる人材の育成も花園高校の強みであるという点も意識をして育成に努めてほしい。 ・ 事業の推進により、第一志望の高止まりの傾向が見えるなど、現時点においての意欲の持続に一定の効果があった。今後は適切な進路指導による成果の確保に努める必要がある。 ・ ICT 活用により授業が多くなり、生徒の意欲が呼びさまされる面もある。授業アンケートにもそういう記述が見えてきている。中学校レベルでも寝ている生徒が減少したと感じる。良い点、工夫すべき点を検討し続けるようにしてほしい。 ・ 生徒中心に、どの生徒にも同様に光を当てる教育を進めてほしい。 <p>◎第3回 平成 27 年 1 月 15 日(木) H26年度取組状況の総括チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の学習指標において生徒の肯定的数値が向上していることが、さまざまな改善の成果を示している。 ・ 着実な積み重ねで学校の力が向上するので次年度も努力されたい。
【H26年度】	【生徒】	【保護者】	【教員】																																		
① 家庭学習習慣＝	35% (+3)	35% (+4)	5% (+3)																																		
② 学力の付く授業＝	70% (+3)	71% (+8)	68% (-14)																																		
③ 校則遵守＝	83% (+2)	84% (+3)	35% (-3)																																		
④ 行事参加＝	63% (-5)	87% (-2)	94% (+2)																																		
⑤ 国際交流＝	78% (-1)	81% (±0)	92% (+5)																																		
⑥ 進路指導＝	62% (+6)	63% (+4)	57% (-8)																																		
⑦ 部活動＝	79% (±0)	78% (+1)	82% (-1)																																		
⑧ 学校満足度＝	82% (-2)	86% (±0)	94% (+6)																																		

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 英語教育、国際理解教育の一層の充実	(1) 更なる英語・国際理解教育 ア. 新たな英語力の向上方策 イ. さまざまな国際理解の機会づくり ウ. 国際交流や校種間連携 エ. 英語力の向上に向けた指導力アップ	ア. 「使える英語プロジェクト」の成果を継承した充実方策 ・英検対策講座等によるキャリア意識の育成 ・準 2 級以上英検受験の促進 (H25:415 人) と合格者の増加 (H25: 65 人) イ. 分掌・教科の枠を超えたさまざまな国際理解教育の機会づくり ・生徒の気づきを生む異文化理解行事の実施 ・留学や国際交流活動参加への支援 ・相互理解の基礎となる一般教養、自己表現のためのプレゼン力の強化 ・Web を活用した姉妹校等との交流機会づくり ウ. 国際交流と校種間連携の促進 ・外国修学旅行生や留学生の受入れ ・地域の学校・大学等と連携した英語力の成果発表の充実 エ. 英語指導力の向上 ・授業改善のための研究協議の実施 ・特色ある英語指導の実践	ア. さらなる英語力充実 ・英検対策講座等 10 回 ・英検 (準 2 級以上受験 400 人台維持、合格者+3%) イ. 国際理解教育の機会づくり ・留学生を招いた国際理解行事の企画充実(全学年) ・留学情報等の紹介や国際交流情報の提供 (各学年掲示板の活用) ・スピーチ大会やプレゼン等の学習成果発表の実施 (2 回) ・姉妹校との Web 交流実験 (2 回・40 人) ウ. 校種間連携 ・姉妹校や外国高校生との受入れ等 (40 人) ・「花園イングリッシュチャレンジ」への参加者数(10%増) エ. 英語指導力の向上 ・校内研究協議週間の設定 (2 回) ・ICT 機器を活用した研究授業の実施 (3 回)	ア. さらなる英語力充実 ◎ ・教員を中心に検定合格指導を実施。外部の講師を招いての英検対策 (9 回) と TOEIC 講座(6 回) を実施。参加者はのべ 200 人。 ・英検準 2 級以上の受験は 422 人、合格者 132 人と前年比大幅増加を図ることができた。TOEIC 受験も 16 人となった。 イ. 国際理解教育の機会づくり ◎ ・継続的な取組として 1・2 年は HR 毎に国際理解行事を実施。3 年は講演会を実施。特別企画として姉妹校生徒の訪日を受け全校交流イベントを実施。 ・留学や国際交流情報の提供により大阪グローバル塾への生徒参加を促進できた(5 人)。 ・校内大会の実施や府レベルのコンテストへの参加、情報科の授業における異文化理解の成果発表を実施。 ・7 月にオーストラリアの姉妹校と Web 交流を実施。双方でのべ 40 人が参加。 ウ. 校種間連携 ◎ ・海外高校生の受入れは韓国姉妹校の 15 人。インドネシア教育視察団との意見交換会に参加。 ・第 3 回「花園イングリッシュチャレンジ」を 8 月に実施。参加中学は 11 校、17 人。(H25 年度 7 校、11 人) エ. 英語指導力の向上 ○ ・校内研究協議週間を中心に ICT 機器を活用した研究授業や教委の授業視察等をのべ 4 回実施。
2 魅力ある授業による、生徒の学力向上	(1) 学習活動の充実と満足度の向上 ア. 多様な進路実現に向けたキャリア学習の充実 イ. 魅力ある授業による生徒満足度の向上 ウ. 学習環境の整備	ア. キャリア学習の充実 ・「花園キャリアプラン」に基づく学年の円滑な接続 ・高大連携による卒業後の進路がイメージできる講演会や見学会等の実施 ・経営推進事業による ICT 機器を活用した校内 NET 映像配信等、学習の動機づけ ・DVD 教材等を活用した自学自習の定着 イ. 魅力ある授業・生徒満足度の向上 ・「授業アンケート」の結果の分析と活用 ・先導的な ICT 活用手法等を学ぶ研修参加と推進体制の充実 ・全教科教員による授業の工夫度向上 ウ. 学習環境の整備 ・遅刻防止週間を実施し、遅刻総数の削減に向けた自覚を育成 ・PTA 参加による校内美化の一層の推進	ア. キャリア学習の充実 ・学校教育自己診断「⑩進路意識の確立」(69%: H25=66%) ・大学見学・体験交流の機会(2 回) ・学年行事での ICT 活用実験 (全学年) ・DVD 教材等利用者(150 人:H25=29 人)、自習室の利用者(2000 人:H25=1760 人) イ. 魅力ある授業・生徒満足度の向上 ・「授業アンケート」の生徒意見の教科協議 (全教科 2 回) ・ICT 活用先進事例収集(2 回)と活用推進研修 (2 回) ・学校教育自己診断「⑥授業の工夫」(69%:H25=66%)、学校教育自己診断「①総合満足度」(85%維持) ウ. 学習環境の整備 ・遅刻防止週間(2 回)、遅刻数の減少(前年比-5%) ・生徒自身の点検評価 (3 回)	ア. キャリア学習の充実 ○ ・「⑩進路意識の確立」(67%: H25=66%) ・校外学習と大学見学を統合、卒業生の体験を聞く機会を設定(2 回) ・文化祭や体育祭応援団の参考事例を事前学習したり、文化祭での ICT 活用企画が増加(9CL)。 ・DVD 教材等利用者(80 人:H25=29 人)、自習室の利用者(2,200 人:H25=1,760 人) イ. 魅力ある授業・生徒満足度の向上 ○ ・「授業アンケート」の生徒意見の教科協議を毎回実施。 ・先進事例の紹介と OJT 的な活用推進が進行 ・「⑤授業の工夫」(68%:H25=66%)、「①総合満足度」84% (85%維持) ウ. 学習環境の整備 ◎ ・遅刻防止週間と学年指導の強化により 12 月末遅刻数は-16.0% (4,373 回:H25=5,201 回) ・清掃状況について生徒自身の点検評価 (3 回) に加えて保護者の観点からの点検評価 (1 回) を実施。
3 行事・部活動や広報活動等の充実	(1) 部活動や生徒活動の活性化と広報力強化 ア. 部活動の活性化 イ. 生徒活動の充実と広報力強化	ア. 部活動の活性化 ・体験入部期間を通して入部率の向上を図る ・ブログの活用による各部活動情報の発信 ・学校見学会を含めた中学生との部活動交流の充実 イ. 生徒活動の充実と広報力強化 ・生徒会行事の継承と新たな充実策の検討 ・生徒会や部活動を中心とした地域貢献活動を推進 ・生徒自身が学校の魅力を発信する「花園 PRESS」の活動による広報の強化と HP の充実	ア. 部活動の活性化 ・1 年生の入部率 (68%) ・部活ブログ記事更新(全部 1 回/学期) ・中学生参加数(200 人) イ. 生徒活動の充実 ・学校教育自己診断「⑥行事への積極的参加」(71%:H25 生徒=68%) ・清掃やフェスティバル等での地域貢献 (2 回) ・「花園 PRESS」の活動評価度(76%維持)	ア. 部活動の活性化 ○ ・体験入部のシステム強化により 1 年生の 6 月時点の入部率は 70.8% (68%) ・日々の活動成果を伝える部活ブログの認知度が向上している。 ・個別部活における随時の交流を除く、学校説明会における中学生参加者は 88 人。総数はほぼ目標達成。 イ. 生徒活動の充実 ○ ・「⑥行事への積極的参加」保護者意識は 87%と高いが、生徒は 63%(H25 生徒=68%) ・有志生徒による随時の清掃活動や高齢者施設のフェスティバル参加などを実施。 ・「花園 PRESS」の活動に対する中学生保護者の肯定的評価は 83%